

学びの対象は何かによっても環境をしっかり考えなくてはならないと思います。例えば「秋と遊ぼう」のような単元では、秋、季節のよさ何かを教師が味わわなければ、子どもたちに出会わすことができないと思いました。できれば、「秋だなあ。素敵だなあ」と感じられる自然豊かな環境に子どもたちを連れ出して、ともに季節を楽しみたいです。

環境自体の内容を吟味することも大切であると同時に、子供達に対してその環境を設置したり提示したりするタイミングも子供達の学びに合わせて見極めていく必要があると思います。

おもちゃづくりの材料の話では、先日2年生の授業で、量や種類の他にも、置き方でも子どもの活動が左右されるのを気付かせていただきました。

ただ教室を賑やかにすれば、一応は意欲は増すとは思いますが、もう一步子供の愛着を高めたり、気づきの質を高めたり、思考を促したりするために、〇〇をしてみるという視点が必要だと思います。

「～な環境」と考えてみると具体的に手立てやイメージが思い浮かぶかと思います。子どもたちがやりたいことをやりたいと言える環境、対象に興味湧きやすい環境、繰り返し試せる環境、道具や材料にすぐアクセスできる環境、困ったときに手を差し伸べてもらえる環境 などなど

低学年や幼児期は、活動と同時に表現がなされている（つぶやきなど）発達段階なのではないでしょうか。そして、必ずしも必然ではない表現活動もあり、教師が意図的に振り返りの場面を設けることも必要であると思います。前者は、幼児教育の中でよく見られ、生活科の学習では、両者を教師がデザインしていく必要があるのではないかと思います

環境構成と一言で言っても、それぞれ、メインのねらいがあると思うので、意図的に構成していくことが大切だと思います。なんのためにそうするのか、またはしないのか、子供の実態や目指す姿によって変わってくるので、具体的に分析していくことが大切だと感じました。

現在おもちゃの単元をしていますが、情報共有(困り感等含む)をお悩み掲示板という名前で黒板に貼っています。活動の中で、困ったら貼る→意見を貰う→修正するといった流れの中で意見を貰える喜びや、意見を貰った子へ自ら質問する姿などを見られています。

活動と表現を完全に分離してはいないのではないかと。活動しながら表現しているし、表現しながら活動している。その瞬間にどちらのウェイトが重いのか、教師は何を見取り、それを元にどう支援するのがはっきりしていれば、活動と表現は一体的になると考える。

## 総合の議論より

材(本物)の魅力は、繰り返して関わる中で醸成されていくものなのかなと感じています。元々知っている魅力・価値が、関わる中で新たな要素に気付きそれが愛着に繋がるのかなと思いました。

2年生生活科、3年生社会科における地域に関する学びがどのようなものだったのかが、大きく関わってくると考えます。この学びの積み上げが、5年生なりの課題の設定につながると思います。

課題設定はどうなのでしょう。野田商店のよさを実感し身体で感じる。そして、野田商店の良さに関して、時間軸と空間軸、理想状況などから比較し、検討していくことで、今の状況とのずれを子供たちと共有することで、「自分たちがやらなくては」となるような課題を共有できると、見通しをもて、意欲を保つことにつながるのではないのでしょうか。

「駄菓子屋さんを広めることで～」と活動のゴールを子どもと共有できたらいいなと思いました。駄菓子屋さんのためでもあり、もっと根底にあるのは自分たちのためということ、自分だったら子どもにもきちんと落とし込みたいです…。

ICTがあることで、個人での探究と、集団での共有がしやすくなったかと思います。個別最適な学びと、協働的な学びに向けた使い方を模索したいところです。個人で探究する場合は授業内の必要はないわけですから、単純な調べる活動に時数を割かなくてもよいなら総合がさらに充実しそうです。

アナログとICTの良さを教師自身が自覚し、その両方を活用して子供達の探究が深められるようにしていきたいなと感じました。あくまでも、ICTの活用が目的ではなく、手段の一部ということをお忘れずに今後の活動の中で活用していきたいと思いました。

今、6年生で「キャリア」をテーマに総合の学習を行っています。ICTによって、得られる情報量が圧倒的に多くなったと思います(様々な職業検索サイトで、仕事のやりがい、働いている人の思いなどを知ることができる)。一方で、田村先生のお話の中にもあったように、やっぱり文字だけの情報だけじゃなくて、直接話を聞きたい(体感したい!)という、次への思いがでるところについては、「ICTではできないこと」がきっかけになるものもあると思いました。

先日、富士見小にお越しいただいた鹿毛先生からは『人間にはモヤモヤする力がある、それを育てるべきだ』とお話がありました。ICTやAIを通してだけでは感じられない人間力を私達は育てるべきだと。

動画作りは「手段」。子どもの中で動画作り自体の魅力が先行してしまうと、動画作りが「目的」化する。目的を達成するための手段なので、そもそも子どもたちの中で目的(探究課題の解決)が明確か、全員で共有できているか、課題は切実かといった条件が満たされているかを検証する必要があると思います。